

User Report

ユーザーレポート



取締役工場長
井原 和広氏

株式会社太陽堂印刷所

<http://www.taiyodoprinting.co.jp/>

本社：千葉県千葉市中央区末広1-4-27
営業本部 TEL: 043-222-1122

第一工場：千葉県千葉市緑区古市場町474-312
TEL: 043-268-3311

創業：1931年(昭和6年)
代表取締役：日暮 秀一



第一工場

帳票におけるワンストップサービスを極める

1931年に創業した株式会社太陽堂印刷所は、代表取締役の日暮 秀一氏が社長に就任した1990年代前半から、帳票ビジネスを強化している。今では、Integrated Forms(統合印刷製品)と銘打って、オフセット枚葉機とフォーム輪転機による印刷後、さまざまな工程を経て付加価値を高めた高機能な帳票を展開している。多種多様な用紙とインキを取り扱うゆえ、以前からインキの乾きで苦勞してきた印刷現場で、2019年末からB2判片面・両面兼用機 RMGT 790PF-4(LED-UV 搭載)が稼働を開始した。そんな同社の戦略を、取締役工場長の井原 和広氏とオフセット課課長の井上 勝氏が大いに語った。

帳票の高機能化と ワンストップサービス化

「ワンストップサービスを突き進み、お客様に安心をお届けしたい」。井原取締役は、開口一番熱く想いを語った。同社の売上の7割以上を高機能なビジネスフォーム印刷が占めている。同社のウリである Integrated Forms(統合印刷製品)は、帳票や印刷物の一部にカードやラベルなど用途に応じた機能を統合した「高機能印刷物」を意味する。お客様ニーズに合わせて自社で設計し、オフセット枚葉機やフォーム輪転機で印刷し、孔あけ、ミシン目、抜き・貼り込みなどの加工を施して、個人情報やさまざまなデータを印字する。そして、チラシやお知らせ等と一緒に封入封緘、投函まで、まさに帳票に求められるさまざまな機能を統合したワンストップサービスだ。



オフセット課 課長 井上 勝氏

同社が枚葉機やフォーム輪転機と

いう印刷工程を基盤に、この10年で印字や封入封緘などの工程の内製化を進めて個人情報の安全を高めつつ、ワンストップサービスの戦略を強化している。地方自治体の税金や手続きに関する帳票類や病院の処方箋など安定した需要に支えられている同社だが、今年はコロナ禍によって給付金や商品券の需要が増えて、チラシやポスターなどの商業印刷の減少を補っているという。

枚葉機の LED-UV 化による メリットは大きい

B2判片面・両面兼用機 RMGT 790PF-4(LED-UV 搭載)は、2019年12月に2色/2色の油性反転機から入れ替える形で導入した。「帳票の分野においても短納期化、小ロット化が進んでおり、即乾のニーズに対応できる LED-UV 付きの RMGT 790 を選



B2判片面・両面兼用機 RMGT 790PF-4(LED-UV 搭載)

んだ」(井原取締役)。それを受けてオフセット課を束ねる井上課長は「ユポ紙に両面印刷するような仕事だと、まさに乾燥との格闘になり、現場の苦勞は大変だった。だから RMGT が世界で初めて発売した LED-UV 印刷機には当初から関心を持っていた。(当社社長の)日暮の指示で RMGT 本社に見学に行って、この目で LED-UV の性能を確かめた。当社は特色印刷が多く、当時は中間色インキの品揃えや価格面から導入に至らなかった」と振り返った。

そんな同社への導入を決定づけた理由として、「近年、資材が充実してきて設備導入に

踏み切ることができた。乾燥待ち時間を考慮すると1週間かかっていたユボ紙への2色/2色の両面印刷が、LED-UV機だとその日で終わるほどだ」と笑いながら、井上課長はLED-UV効果を表現した。

井原取締役は「データ印字をお客様先で行う帳票の場合、お客様の複合機が目詰まりを起こさないように、パウダーを使わないLED-UVは好都合だ」。帳票の新規商談では、多種多様な伝票



多種多様な伝票の下地の色や模様が一望できる「太陽堂見本帳」

の下地の色や模様が一望できる

『太陽堂見本帳』の中から、お客様に選んでいただく。「今まではフォーム輪転機によるUVインキの色味と、枚葉機の油性インキの色味が異なるために苦勞した。RMGT 790導入にあたって、フォーム輪転用UVインキがLED-UVで乾燥するかどうかテストした。導入後にもいろいろトライして、今まで印刷した20種以上のフォーム輪転UVインキのどれもが乾いた」(井上課長)。同社では帳票をフォーム輪転機で、お知らせの挿入物を枚葉機で刷って一緒に封入封緘するような仕事が多くあるので、いずれの機械で刷っても色味が合うようになった。「当社ではそれ以外にも、減感インキ、流動性が低い示温インキから高額なブラックライトインキまで幅広いインキを使っている。どれもLED-UVでしっかり乾いていて、実に安心できる」。



フォーム輪転用UVインキの多くを、RMGT 790にも共用する

技術や設備を組み合わせて付加価値をつける

「当社の印刷物には付加価値がついてないといけない」と井原取締役が商品に対する考え方を語った。実際、同社の帳票には、箔押し、特殊ナンバリング、偽造防止、スクラッチなどの特殊機能が織り込まれることが多い。そこで「枚葉機だけでは付加価値をつけるのに限界があるので、フォーム輪転機で特殊なインキをスポット印刷し、枚葉機でベースにカラー印刷するように、現場どうして知恵を出し合っている」(井上課長)。両方の機械で重ね刷りする仕事は量的には多くないが、そういう仕事が差別化ポイントになる。

「RMGT 790はこれまで不具合はなく、非常に調子がいい。生産性が大いに上がった。特にフィーダーが素晴らしい。入替



孔あけ、ミシン目(縦目・横目)、抜き加工に対応する6色フォーム輪転機



いろいろなサイズの帳票やチラシを封入できる封入封緘機
前の機械で苦勞していた奉書用紙や薄いCCP(ノンカーボン複写用紙)が難なく通る。減感インキを使う数万枚通しの帳票の仕事がくると、RMGT 790を入れてよかったです」と井上課長は絶賛する。

部門横断で常に新商品を考える

同社工場の廊下の壁にはクレーム報告書が貼り出され、その下には同社幹部の捺印が10個以上並ぶ。個人情報を取扱いお客様に安心をお届けする同社では、クレームをことさら重要に考えている。クレーム対策を深



工場の廊下の壁に貼り出されたクレーム報告書

く考える中に、改善のヒントや次への飛躍のネタが詰まっているからだ。

井原取締役、井上課長から受け取った名刺には多くの資格が書かれている。同社は教育に熱心で、特に閑散期に集中して部門横断で教育プログラムを実行している。新たな



品質検査用にインクジェットプリンターで1枚ずつ識別番号を印字しながら給紙するフィーダー



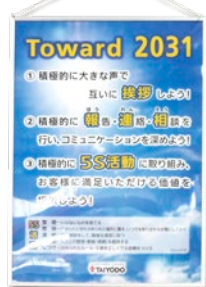
(左)オフセット課主任 笹川 賀崇氏
(右)オフセット課課長 井上 勝氏

教育を受ける中で、さまざまな技術と知恵が重なり合い、新たなコンテンツを生む下地となる。同社では長く、部門横断で新規分野開拓プロジェクトを行っている。今では大手衣料品

チェーンのレジで実運用されている、近距離で無線通信して情報をやりとりするRFID技術に、20年以上前から取り組んだことを尋ねると「あれは取り組みのが早すぎた」と井原取締役は笑って振り返った。つくづく同社の先見性とチャレンジ精神に驚かされる。

地方自治体による情報提供の充実と個人情報保護は、これからますます求められる。コロナ禍の中でますます

重要になる基本的な住民サービスでもある。同社は帳票の高機能化とワンストップサービスにさらに磨きをかけて、その役割を担っていく。



同社工場の各所に掲げられた会社方針